

始めてみませんか、市民の皆さんによるまちづくり！ 市民活動団体の紹介

本市では、地域活性化のために自ら企画して、公益的活動を行う市民活動団体などが実施する事業に対して、補助金を交付しています。
今回は、同補助金を活用して活動を行っている4つの事例(団体)を紹介します。

スタートアップコース

これから活動を開始する、または活動間もない団体(概ね3年未満)が実施する事業に対して、初期段階で補助するコースです。

六月灯で街おこし事業

六月灯実行委員会



本市の特産品でもある竹紙と、LED電球を使ったオリジナル灯ろうを、六月灯時に商店街アーケードや川内駅に飾り、中心市街地から地元を盛り上げています。

空き家・空き地を活用したマーケット「てくてく」開催事業

てくてくプロジェクト



まちの空き家を活用したマーケットを開催しています。まちの魅力を発信し、移住を希望する方へのサポート活動も行っています。

ステップアップコース

市民活動団体が、これまでの活動を発展させるために、新たに実施または拡大する事業に対して補助するコースです。

里オリーブ文庫事業

里オリーブ文庫



絵本の読み聞かせ、昔話、わらべうたなどを通して、楽しみや喜びを共感し、感性を高めながら、生きる力や豊かな言葉を育てる場をつくれます。

舞台芸術で育む心豊かなコミュニティ事業

地域未来ネット・せんだい



演劇体験(鑑賞やワークショップ)を通して、多世代間のコミュニケーションや芸術文化との出会いの場を提供しています。

【問合せ】=本庁コミュニティ課 コミュニティ・生涯学習グループ ☎(23)5111(内線4613)



1991年(平成3年)7月26日に本市と常熟市が友好都市を締結してから、25年が経過しました。

本市(旧川内市)は、アジアに開けた重要港湾「川内港」の振興をはじめ、産業経済の活性化を図ることを目的に、中国の港湾都市との友好都市締結を目指し、1985年(昭和60年)に第一次経済調査団を中国に派遣しました。その後も友好都市の可能性調査を進め、当時の孫平化中国日本友好協会会長の力添えもあつたことから、常熟市との友好都市締結が実現しました。

友好都市締結後の歩み

▼1994年(平成6年)
常熟市尚湖のほとりの「川内の森」に記念碑建立と記念植樹

▼1997年(平成9年)
平佐西小学校と常熟市石梅小学校との友好交友校調印式

▼2001年(平成13年)
友好都市締結10周年を記念して、常熟市が中国風の東屋「琴川亭」を寄贈(総合運動公園内)

▼2005年(平成17年)
市町村合併により新市が誕生したことから、薩摩川内市と常熟市との友好都市を再締結

▼2008年(平成20年)
川内商工会議所と常熟市工商業連合会との間で、友好会所協議書を締結

▼2011年(平成23年)
鹿児島純心女子大学と常熟理工学院との間で、友好学校協定書を締結

本年7月に、岩切市長を団長とする合同訪中団を派遣しました。王廳常熟市書記との会談の中で、川内港と常熟港との貿易交流および両市間の観光交流に関する協定書締結の確約がなされ、翌月29日には、陳惠良常熟市副市長を団長とする貿易・観光調査団が来日し、「貿易・観

光に関する協定書の締結に至りました。本市の永年の悲願であった目的が達成され、今後、両市は貿易・観光の交流促進を目指し、新たなステージへと歩みを進めていきます。

常熟市ってどんなまち？

【位置】江蘇省の東南部に位置し、東は上海、南は蘇州、昆山、西は無錫、北は世界で3番目に長い川である長江を臨みます。

【人口】約107万人(本市の約11倍)

【面積】約1264平方キロメートル(本市の約1.8倍)

【特色】気候が温暖で、自然にも恵まれ、毎年豊作であることから「常熟」と名付けられました。経済発展も著しく、トヨタ、ダイキン工業、旭化成、三菱商事などの日系企業が数多く進出しています。



友好都市締結25周年記念事業の経過報告



協定書調印式
(左：陳惠良常熟市副市長)

8月
常熟市貿易・観光調査団受け入れ



薩摩川内フェア
(常熟市内の商業施設にて)

7月
薩摩川内市合同訪中団派遣



記念祝賀会
(市内ホテルにて)

5月
常熟市友好交流団受け入れ